

CONTENTS

●特集	2
わたしたちのクラブ活動紹介します!!	6
教職員紹介／留学生の今	8
ゼミに直撃!	9
大学にプラス!	10
地域にプラス!	12
就職活動最前線	14
若桐会Letter	15
学園100周年プロジェクト	16

特集

座談会

2020年4月 新学部・新学科開設



学園100周年プロジェクト

十文字学園は2022年に創立100周年を迎えます



～十文字学園創立100周年記念募金～

十文字学園に向けたご高配とご支援を賜りたくお願い申し上げます。
趣意書およびお申し込み方法の詳細は、100周年サイトでご覧いただけます。
振込用紙が必要な方は、十文字学園100周年プロジェクト事務局までご連絡ください。



資料ご提供のお願い

ただいま「十文字学園百年史」編纂の準備を進めています。
皆さまがお持ちの関連資料の提供にご協力いただける方は、事務局までご連絡ください。

例) 短期大学・大学・学科・専攻などで配布された刊行物や印刷物、クラブ・サークルのパンフレット・ポスター、イベントやキャンパス内外のスナップ写真など、学生の様子が伝わるもの。
※1971年、1973年の卒業アルバムをご提供いただける方はご連絡ください。



当時のパンフレット
毎年恒例の学園祭
昭和61年の十文字短大祭第20回を記念
して、学内公募により「桐華祭」と名づ
けられました



入場ゲート

硬式テニス部の模擬店



学園祭を見学する二代目理事長 十文字
良子先生と、短大二代目学長 坂元彦太郎
先生

十文字学園
100周年プロジェクト
事務局

〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
TEL 048-423-3749 (直通)
TEL 048-477-0555 (大学代表)
E-Mail 100th@jumonji-u.ac.jp

〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33
TEL 03-3916-2030 (直通)
E-Mail 100th@jumonji-u.ac.jp

Jumonji Press No.49
2019年11月1日発行

発行: 十文字学園女子大学
〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
TEL 048-477-0555 (代表)
編集: 十文字学園女子大学 広報部
編集指導: 石野 榮一 (メディアコミュニケーション学科教授)
取材協力: ライターデザイン部 小野寺 七海、大山 彩花、
竹山 智美、唐津 奈々子、蛭川 美佳子、
植村 萌絵、富樫 奈々、中西 麻樹
制作協力: ケイ・アイ・エス 株式会社

表紙の写真

総合科目「毎日英会話」
講師マヤ・フォールズ
さんと履修する学生
の皆さん

毎日45分間、ネイティブスピーカー講師による授業を開講しています。和気あいあとした雰囲気の中で英語の苦手を克服し、英語コミュニケーション力をめきめきと伸ばしています。

編集後記
第49号のJumonji Pressは、2020年新学部・学科開設に伴い新設・リニューアルされる4学科を特集し、座談会を実施しました。
座談会に出席した若手教員の学生に対する真摯な想いには、学部・学科を超えた本学の教育理念に通じるものが感じられました。学科を志望する受験生・保護者の皆さまにとって参考になれば幸いです。
本号につきまして、取材等にご協力くださった方々に心から御礼申し上げます。
ライターデザイン部 部長 竹山 智美
ライターデザイン部に新しい仲間が増えて活気づきました。新入部員の活躍に期待が膨らみ、心が躍る思いです。部員一丸となって十文字学園女子大学の情報を発信したいと思います。次号もご期待ください。



[Jumonji Press]へのご意見・ご要望は、
kohoka@jumonji-u.ac.jpまで。

Brand New
Jumonji!!

2020年4月 新設・リニューアル

健康栄養学科

食品開発学科

文芸文化学科

社会情報デザイン学科

2019年4月届出済。名称や内容は計画中で、
変更が生じる場合があります。

座談会

2020年4月 新学部・新学科開設

新しい十文字が
スタートします。2020年4月から3学部9学科となる新教育体制は、本学の持続的な発展を実現するための
新たな取り組みです。今回は、新設・リニューアルする学科の先生方に、それぞれの学
科における学びの特色などについてお聞きしました。

(写真左から 社会情報デザイン学科 加藤 亮介講師、文芸文化学科 星野 祐子准教授、健康栄養学科 小長井 ちづる准教授、食品開発学科 梶野 涼子講師)

新学科の学びの特徴と
求める学生像——まずは、それぞれの学科における
学びの特徴について伺います。

小長井 健康栄養学科では、食べるこ
とや運動することの専門知識や技術を、
実習や実技、演習を通して、楽しく体
験しながら身につけ、栄養を基礎とし
た人々の健康づくりのための幅広い学
びができます。運動と食事の両面から
の健康づくり・体力づくりを支援する
スキルを身につける「健康運動コース」
と、食の多様性、食の広がり、奥深さ
を学び、生きる力を身につける「食文
化コース」を新設し、スタートします。

加藤 社会情報デザイン学科では、着実
に社会の変化をとらえ、そのあり方を提
言できるような人材の育成を目指して
います。それを達成するための学びの特
徴は、一つは個々人の特性が固定されてい
ない1年生から理系・文系と学びの領域を
分けずに、文理融合型のカリキュラムで
あることです。二つめは、社会が大きく
変化する中でも柔軟な発想力を持ち、他
者とともに知恵を出し合い協働できる力
を実践を通じて身につけることです。

梶野 食品開発学科では、「食の科学」を
ベースに、安全性・機能性・おいしさに

優れた食品を開発し提供する、高度な能
力を備えた人材の育成を目指しています。こうした人材を育成するために、「食のお
いしさ」「食の開発」「食の科学」「食の安
全・安心と機能性」「食のビジネス」の5
つの領域から科目を設定し、食品を扱う
うえで欠かせない基礎知識から高度な食
品開発を行うための専門スキルまでを網
羅的に修得するカリキュラムを設けてい
ます。実践力を身につけるため、さまざ
まな食品関連企業や研究所と連携した特
別授業、食農体験や学内専用施設でのカ
フェ実習など特色ある授業も開講します。

星野 文芸文化学科では、確かな日本語
力を修得しながら文化芸術分野の豊かな
教養を身につけることができます。さら
に「自文化」への深い理解をもとに「異
文化」を知り、国際社会に生きるすべを
学ぶため、「日本語・日本文学コース」「芸
術・文化コース」に加えて「多文化理解・
共生コース」を設置します。新設の「日
本語教員資格」につながる科目も多く、
幅広い学問領域の中から自分の「好き」
を見つけて究める学びが特徴です。

——学科として、どのような学生の入
学を求めますか？

小長井 一言でいうと、人をもてなして喜
ばせたい人。例えば、運動する人のコンディ
ションを食を通して支えたい人、世界に和
食を広め、健康づくりに貢献したい人など
です。つまり、栄養・運動・食文化に強い
興味・関心を持ち、社会の健康づくりに貢

献したいという意欲のある人でしょうか。

梶野 食品に興味があり、新しい食品を
開発したいという意欲のある学生を求め
ます。また、「実験・実習が好き！」「理
系科目が好き！」という人は、楽しんで
学べる場所です。

加藤 学科が求める学生像は、まず社会
と自分の関わりを大切にする人です。私
たちの周りで起きることをひとごととし
てではなく、さまざまな角度から興味を
持つことが大切です。

星野 ことばや文学、芸術や文化に真摯
に向き合い、本質を見極めようとする学
生の入学を期待します。一方で、体験型
科目が多くあるので、アクティブな学生
も大歓迎です。「読み聞かせ」や「演劇表
現」など声で表現する科目、ことばの響
きを楽しむ「ことばあそび」などの科目
があります。小説やエッセイを書いたり、
デジタルアニメを制作したりと「創作者」
になる経験も可能です。

期待する学修成果と
学生へのサポート——大学4年間で、学生に学び取って
もらいたいことは何でしょうか？

小長井 日々の学びの中で、健康的な
生活を考え、実践していきましょう。



健康栄養学科

小長井 ちづる 准教授

専門は食品学、食品生理学。
担当科目は食品学、食品の調
理加工学、おいしさの科学

そうする中で多様な人々とのつながり
や協働を生み出す力を身につけてほし
いですね。

加藤 まずは一人ひとりが社会を構成
する単位であることを自覚してほしい。
そのうえで自分たちが学び、正しいと
考える方向に他者とともに行動するこ
とで、社会をより良い方向に変えてい
けることを学んでほしいと思います。

梶野 食品を創造して開発する能力は
もちろん、「食の専門家」として、倫理
観、責任感、科学的根拠に立脚した判
断力などを、学修を通して学び取って
もらいたいですね。

星野 自分の関心のありどころを見定
め、自ら主体的に学び続ける力です。
文芸文化学科はカリキュラムの自由度
が高いので、興味・関心に合わせて学
びをカスタマイズすることができます。
そして、芸術・文化の創造的な働きや
豊かな広がりを感じながら、対象を
多角的にとらえ、対象の価値を見いだ
す感性を養ってほしいと願います。

——学生に対してどのように接するこ
とを心掛けていますか？

社会情報デザイン学科

加藤 亮介 講師

専門は教育工学、教育方法学。
担当科目は表現基礎(映像)、
IoT・AIとプログラミング、拡
張・複合現実

小長井 分かりやすい授業を心掛けて
います。専門である食品学は自然科学
的な要素を多く含んでいる分野ですが、
理系科目が苦手な学生も少ないとは言
えず、ハードルが高いと感じる学生も
見受けられます。そこを何とか理解し
てもらえるよう、抽象的なことでもイ
メージしやすいようにモノにたとえて
話をしたりしています。特に1年生の
最初につまずいてしまうと、全部が億
劫になりかねないので、そういうこと
が起きないようにしています。

加藤 大学は4年間ですが、卒業後の時
間のほうがずっと長いですから、将来の
キャリアに対する学生の考えをなるべく
ロングスパンで引き出し、向き不向きも
考えながら指導しています。ただし、人
生の基礎を作るうえでの大事な4年間で
なので、いい学び、成長ができるような
サポートを心掛けています。

梶野 小長井先生が1年生のことを話
されたので、少し進んだところについて
触れたいと思います。2年生になると基
礎を学んだうえで食品加工学実習も始ま
り、アイスクリームや豆腐、こんにゃ
く、ジャムを作るなど、楽しい時間も増

2020年4月から、この4学科で新たな学びがスタートします。

人間生活学部

健康栄養学科 2コース制

本学科は、栄養士養成を基盤として、健康運動コースと食文化コースの2つを設置し、人々の健康と幸福な生活を目指し、食・栄養・健康の側面から支援できる人材を育成します。食文化コースでは、多様な食文化に触れ、食のあり方を確認し、日本人の美意識を持った食生活を創造できる力を育みます。

健康運動コース

健康のための身体活動から、スポーツ・運動までのサポートができるスペシャリストを育成します。

食文化コース

食を通して、その背景にある多様な食文化を理解し、感性豊かな食のスペシャリストを育成します。



——卒業後は、社会においてどのような活躍を期待していますか？

小長井 健康で幸せな食生活を支える

将来の活躍分野と期待されるキャリア像

えます。その中で、なぜ豆腐が固まるのかといった基礎的な原理、科学的な知識を身につけたうえで発表してもらおうようにしています。単に楽しただけに終わらず、学問的な深みを持たせるような工夫をしています。

星野 元気な学生、控えめな学生、積極的な学生と、まさに学生の個性はさまざまなので、「個」に合わせた対応を心掛けています。活発な学生には多くの機会を与えて主体的に行動できるように、一方、控えめな学生には、寄り添いながら一緒に次のステップを設定し、少しずつ成長できるようにと意識しています。



食品開発学科

梶野 涼子 講師

専門は食品化学、食品加工学。担当科目は食品加工学、食品成分の化学、食品の特性

高齢者・保育施設などの栄養分野、楽しく豊かな食生活を創り出す食品会社やフードサービス分野、体力づくりを支援する運動分野、児童・生徒の健康を食と運動の生活習慣から指導する教育分野、市民の健康維持を広く支える行政分野など、活躍の場は多岐にわたると思います。

加藤 変革の時代においては、多くの職業のあり方も影響を受けると考えられています。今まで重要と思われていた職業がAIや機械に代替されたり、全く新しい職業が現れたり、従来の延長線上では考えにくいのがこれからの時代です。しかし、社会の変革をとらえる力、そのあり方を提言できる力を身につけることができれば、従来の仕事はもちろん、今後新しく生まれるであろう職業においても活躍できると考えます。

梶野 食品開発学科で学んだ食品開発や品質管理等の知識・技術を活かして、食品メーカー、食品素材メーカー、食関連研究所、食品分析機関などでの活躍が期待できます。また、より高度な食品開発研究力を身につけるために、



文芸文化学科

星野 祐子 准教授

専門は日本語学、コミュニケーション、談話分析。担当科目は日本語学入門、日本語学A（日本語の歴史）、ことばあそび

大学院進学の道もサポートします。

星野 在学中に取得できる資格としては司書、学芸員、中高の国語教員、日本語教員があります。日本語教員は国際化がますます進む現在、注目の資格です。もちろん、資格が就職に直結しなくても在学中に培った豊かな感性、柔軟な思考力、文化的な教養はどんな職業に就いても大切です。また、高度な日本語力を身につけた本学科の卒業生なら、広報や編集など、書くスキルが求められる場でも活躍できるでしょう。

——それぞれの学科を志望する受験生に向けて一言お願いします。

小長井 健康栄養学科では栄養士はもちろん、それ以外の分野でも活躍できるような人材の育成を目指しています。そのため、いろいろな分野に活かせる幅広い知識の修得ができるカリキュラムを用意しています。しっかり食事をとり、運動でからだを鍛え、視野を広げて主体的に学び、4年間を通じて、自分の力を活かせるフィールドを探してほしいですね。

加藤 現代は不確定な時代であり、AIに仕事を奪われるといった不安が叫ばれている中で、これから大学で学び、社会人となる皆さんには、そのような時代が訪れたとしても社会を勝ち抜いていく力、生き残れる力を一緒に養っていきましようというメッセージを贈ります。

梶野 人の役に立つような食品や、わく

人間生活学部

食品開発学科

本学科では、「食の科学」を基盤として、安全性・機能性・おいしさに優れた食品を開発できる能力を備えた人材の育成に取り組みます。



「食のおいしさ」「食の開発」「食の科学」「食の安全・安心と機能性」「食のビジネス」の5つの領域から食品を開発するために必要な知識を身につけます。また、高度な食品開発研究を行うとともに、食品関連企業と連携した授業、インターンシップ、学内におけるカフェ実習を通して食品を開発する力を養います。

教育人文学部

文芸文化学科 3コース制

本学科では、「多文化理解・共生コース」を新設し、文化を多角的に理解することで自文化を相対化し、共生していく力を育みます。従来の2コースと併設することで、ことばの力を磨き、文化・芸術を深く洞察するとともに、グローバル社会の中で多様な人々と共生していく心豊かな人材を育成します。

日本語・日本文学コース

美しい日本語、楽しいことばの秘密を探り、古代から現代に至るさまざまな日本文学について学びます。

多文化理解・共生コース

多様な文化に親しみ、多文化社会で人々とともにクリエイティブな活動をするすべを身につけます。

芸術・文化コース

日本と世界の美術や演劇を体験的に学び、身近で深い日本文化の特質について考えます。



社会情報デザイン学部

社会情報デザイン学科

本学科では、社会学を基盤としつつ、「Society5.0」「超スマート社会」といわれる時代において、求められる文理融合型の課題解決能力を備えた人材の育成に取り組みます。



教室を飛び出し、企業などでの実践的な学びを通して、協働する力を養っていきます。「企画構想ラボ」では、個人だけではなくチームでアイデアの創出から成果品の完成まで全過程を学生主体で取り組み、デザイン力を身につけます。

学内で海外留学!「毎日英会話」スタート

月曜日から金曜日までの毎日、45分間を1コマとした、ネイティブスピーカー講師による英語の演習科目「毎日英会話」が始まりました。キャンパス内にいながらまるで海外留学をしているような環境で、基礎的な英語コミュニケーション力を身につけることができます。1クラス15名前後の少人数制、しかもレベル別クラス編成で授業が進められており、英語に対する苦手意識を克服し、外国の方とのコミュニケーションに慣れることができると好評です。

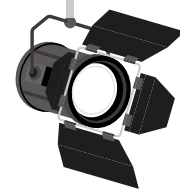


わくするような食品など、新しい食品を作り出したいという興味や意欲がある人はぜひ食品開発学科を目指してほしいですね。新しい学科ですので、「目指せ、開発女子!」をモットーに一緒に盛り上げていきましょう。

星野 文芸文化学科の学びはまさに多彩。好きなことが学問になる環境がここにあります。文化を広くとらえれば、マンガやアニメも、もちろん文化。同じ関心を持つ友人と共に、研究という視点で議論を重ねる楽しさを味わってほしいと願っています。

試行錯誤を繰り返し 全員で作り上げる—— musical club~Bloom~

部長
メディアコミュニケーション学科
3年
大山 彩花



musical club
Bloomは部員16人で活動しています。16人いれば十分な人数のように思われるかもしれませんが、全員が舞台上に上がるほか、幕の開け閉め、音響、照明、小道具や大道具の出し入れ等も自分たちで行うので、本番が終わるまで緊張の連続です。また、ほぼ全員が大学からミュージカルを始めたので、日々試行錯誤を繰り返しながら練習に取り組んでいます。

今年度の公演では『ME AND MY GIRL』を上演します。今までコメディ的な劇を行ったことはない初めての挑戦になりましたが、お客様に楽しかったと言ってもらえるミュージカルを目指して頑張ります。

活動を通して感謝していることは、公演を行うたびにたくさんの方々がサポートをして下さることです。引退した4年生や顧問の薙崎伸一郎先生（幼児教育学科）のご指導、そして当日会場に足を運んで下さるお客様のおかげで今もこうして活動を継続することができています。

- 活動日
月曜日 16:45~20:00
土曜日 10:00~17:00
- 活動場所
431教室、339教室
- 活動内容
桐華祭上演
新座快適みらい都市市民まつり上演
学内学友会イベント上演
- 部員数
16名



10月末の桐華祭が終わると、3年生は引退になります。引退するまでは1、2年生と本番のために頑張り、引退した後は今までの先輩方のように後輩をバックアップしていくつもりです。これからも来て下さるお客様のために、musical club Bloomの伝統を引き継いでいきたいと思っています。

楽しく育てて おいしくいただく—— ニコニコ農園部

部長
食物栄養学科 4年
石川 沙亜羅



ニコニコ農園部（通称ニコ農）のモットーは「野菜を育てて、採って、持って帰る」。野菜づくりのプロである近隣の農家の方と契約し、栽培のコツをご指導いただきながら活動しています。きゅうり、なす、トマト、とうもろこし、えだまめ、スイカ、パクチー……育てた野菜は数知れず。おいしい野菜が育つまでは雑草抜きや害虫対策など大変な作業が続きますが、収穫のときの達成感、採れたて野菜のおいしさを思えば頑張れます。

私が部に入ったきっかけは高校3年生の時に訪れたオープンキャンパスです。対応してくれた先輩がニコ農の活動について楽しそうに話す姿に「入学したらニコ農に入ろう!」と決めました。入部して出会った新しい友人や頼れる先輩は、私にとって宝物のような存在。先輩後輩関係なく、雑談を交えながら和気あいあいとした雰囲気の中で活動できるのもニコ農の魅力です。

収穫時期は大きく分けて夏と冬の2シーズン。採った野菜は自分たちで持ち帰ったり、教職員の皆さま

- 活動日
月曜日
- 活動場所
学内の畑、けやき館2階部室
- 活動内容
4月 お茶摘み体験会（新入生体験入部）
5月 夏野菜種まき・苗植え
7月 とうもろこし収穫体験
8月 カレーパーティー
10月 桐華祭出店
大学学・野菜の販売（昨年度飲食部門人気投票第1位）
12月 送別会（4年生を送る会）
- 部員数
42名（1年生30名、2年生10名、4年生2名）



んにおすそ分けしたりしています。また、十文字女子大附属幼稚園の子どもたちや教職員を交えての「とうもろこし収穫体験」をはじめ、さまざまな方と触れ合えるイベントも開催しています。ニコ農の畑は一般的な家庭菜園と比べても大きく本格的。今後も色々な機会を通して、部員以外の方々が野菜を育てる楽しさや面白さを知り、きっかけづくりに協力できたらいいなと思っています。

幼児教育学科

なだち ひであき

名達 英詔 教授

学生時代は人間形成に大きな影響を持つ年代。親や兄弟、友人はもちろん、普段の学びの中で教職員から受ける影響は少なくないはず。そんな私たちの成長を支える本学の教職員を紹介していきます。

教職員紹介



今回ご紹介するのは、帽子とツナギの作業着がトレードマークの名達英詔先生。いつも笑顔を絶やさず、学生の間に「親しみやすさナンバーワン」との呼び声も高い先生です。

名達先生は幼少のころからものづくりが好きで、大学では美術教育、大学院では彫刻を専攻。創作活動が続ける中で「ものづくり体験を通して人が学び、成長していくことの意味」に関心を持つようになり、教育・研究の道に進んだそうです。現在は、造形活動を指導する教師の発話について分析するなど、さまざまな観点から造形教育の可能性を探っています。

もちろん研究ばかりでなく、学生の教育にも熱心です。例えば造形の実習では、活動のプロセスを重視し、学生一人ひとりに寄り添った指導を行っています。「学生の意欲を引き出し、それぞれの感じ方や、心の内にある思いを表現しながら学べるよう、何度に対話を重ねながら授業を進めています。また、遊びを通して明日をつくりだす幼児や児童にとって造形は欠かせませんから、学生にも遊び心を持つて真剣に取り組んでもらえるよう促しています」

そんな名達先生の授業は、教室中が常に生き生きとした雰囲気溢れています。「僕もよく笑いますが、学生たちもみんなにこやかに感性豊か。保育の現場でも笑顔を忘れず、子どもたちを明るく照らすような先生になってほしいですね」。学生は、名達先生の笑顔からも多くの大切なことを学びとっているようです。



遊び心を大切に!

留学生の今

本学では学部、大学院、留学生別科で数多くの留学生が学んでいます。母国を離れ、遠い新座の地で日々勉学に励む、留学生の今、をお伝えしていきます。第4回は、十文字奨学生、カナダ出身のアナステイジアさんを紹介します。

「日本文化の魅力を満喫」

十文字奨学生 アナステイジアさん

アナステイジアさんは、カナダのノーザン・ライツ・カレッジの1年生で、考古学を専攻しています。考古学を学ぶためにはさまざまな地域の遺跡や遺物について知る必要があると考え、その中でも豊富な研究材料や資料がある日本への留学を決めました。



日本文化にもとても興味があるそうで、「日本の文化はとても歴史が深く、その歴史の中にもさまざまな変化があり、時代が変わっても以前の文化と新しい文化が混ざり合うことでとても美しい文化が生まれていることに魅力を感じています」と話してくれました。日本の印象を伺ってみると、「想像していたよりも、皆さんとても親切でオープン。街を歩いていてもいろいろと面白いことがあります」という答えが返ってきました。カナダと違ったマナーやルールなどに少し戸惑いもあるそうですが、休日はホストファミリーや友人と原宿や各地のショッピングモール、博物館や神社に出かけたりして楽しんでいるといいます。

そんな日本での勉強とさまざまな体験で留学生生活が充実しているというアナステイジアさん。好きな日本語は「おととい」で、英語にはない発音で面白いからということ。またアナステイジアさんは、絵を描いたり、ミュージカルに挑戦したりと多趣味です。インタビュウ中に披露していただいた歌はとても素敵で、その魅力的な歌声に引き込まれました。大学内でもJ和太鼓部、茶道部、箏曲部、書道部に参加し、学生と一緒に活動を体験。J和太鼓部で、法被を着て部員の皆さんと演奏した時は、初心者とは思えない演奏を披露し、周囲を驚かせたそうです。



日本でのたくさんの思い出や趣味の話をしてくれた多彩なアナステイジアさんに、行動のモットーを伺うと、「一番最初に来たチャンスを大事にすることです」と話してくれました。

(ライターデザイン部 唐津奈々子、蛭川美佳子)

「決めるのはゼミ生」 自主性引き出す狙いに

僕のゼミには2つアプローチがあります。一つはモノづくり。皆さんが目にする広告やポスターのようなグラフィック作品をデザインする取り組みです。もう一つは、そのモノがどういう観点で作られているのかを考えること。どういう視点でデザインされ、実際にどういう使われ方をしているのかを、メディアリテラシー的な部分と併せて学びます。

ゼミの性格上、将来、デザインの専門職や広告関係などの業界を志望する学生が多く集まっています。これまでもいるんなゼミ生がいましたが、特に今年はとても個性的ですね(笑)。日本人だけでなく、中国やベトナムからの留学生、他学科から転学科してきた学生など……。異文化が交錯する面白さがあります。

ゼミの特徴は「モノを作って」、それを自分たちだけ・学内だけではなく

メディアコミュニケーション学科 川瀬 基寛 ゼミ

ゼミに直撃! Vol.4

シリーズ4回目となる今回の訪問先は、メディアコミュニケーション学科の川瀬基寛先生のゼミです。グラフィックデザインや映像コンテンツの制作などの「モノづくり」を実践的に学べるとあって、デザインコンペに応募して採用されたりと、さまざまな学外活動を行っています。

ゼミの指導方針などを川瀬先生に語っていただきました。(ライターデザイン部 大山彩花、竹山智美)

「外とつながり、外で評価してもらう」ことを重視して活動している点です。自分たちだけで終わらせてしまうのであれば趣味と変わりません。学問としてデザインを学ぶには理論はもちろん重要ですが、デザインというのは相手がいる話ですから、やはり外からどう評価されるかを常に意識していなければいけないですね。そうした意識を持つためにも外部連携は不可欠と考えています。

こうした方針のもと、新座市のお祭り(大江戸新座祭り)で子ども向けの缶バッジのデザインをしたり、埼玉西



川瀬 基寛教授

専門：教育工学、メディア・リテラシー教育、コンテンツ(グラフィック・映像)制作。
経歴：愛知淑徳大学大学院現代社会研究科現代社会専攻修士課程修了。同大学助手、甲南女子大学文学部特任講師を経て現職。

武ライオンズの依頼で「女子大生をもっと球場に!」というテーマのポスターのデザインコンペに応募して採用されたりと、さまざまな学外活動を行っています。



のは本来、教員の専門分野や考えていることを、学生がある程度自分自身でかみ砕き、取捨選択し、ヒントにしながら自主的に学びや研究を進める場であると僕は考えています。言われたことしかやらないというのは一方的な授業であって、ゼミではなくってしまっていると思います。

ゼミの卒業研究は、論文を書くか、作品をデザインして副論文を書くかの2択になります。論文だけの学生はごく少数で、後者のパターンがほとんどです。自分でコンセプトを考え、それをデザインとして表現し、外部の業者に依頼してサンプルやグッズなどを作成する。そして、なぜ、どういう観点からそれを作ったのか、さまざまな要因や関係性を調べ、研究し、文章化してもらう、というのが卒業研究の基本的な流れです。

ところで、僕のゼミはほかのゼミに比べると緩いと思われがちなんですよね。なぜかという、学生たちの自主性に任せているからです。ゼミという

ですから担当の教員としては、あれこれ口を出したりルールを敷いたりということはなるべくしませんが、方向性がまとまらない、進まないというような場合は、ある程度のかじ取りはします。方向性は示すけれど、最終的にどれを選ぶかは本人次第。こうしたゼミ活動を通して、学生には大いに自主性を育んでほしいですし、それがこれからの社会を生きるチカラにもなると思っています。これが川瀬ゼミの一番の狙いです。

十文字 TOPICS

研究活動やスポーツ、ボランティア、各種イベントなど、キャンパスの内外で多彩な活動を展開する十文字学園女子大学の学生・教員たち。このコーナーでは、そうした日々の活動や出来事をご紹介します。

7/20
大江戸新座祭り



十文字女子大連が阿波踊りを披露

(十文字女子大連)

「第5回大江戸新座祭り」の阿波踊りで、本学の「十文字女子大連」が昨年に引き続き息の合った踊りを披露しました。メンバーは総合科目「新座の祭りとまちおこし」(児童教育学科 星野敦子教授)を履修する学生約60人。地域に根ざした伝統を知り地域の活性化に貢献することを目的に、「踊り手」と「鳴り物」チームに分かれ、「新座阿波おどり振興協会」の方々の指導を受け練習を重ねました。先頭に立つ高張提灯の持ち手は連携大学である大東文化大学の男子学生2名が、連長は本学の須田健治客員教授(前新座市長)が担当。沿道に集まった観客からは温かい声援が送られました。



7/5
七夕まつり



浴衣姿で過ごす「七夕まつり」(文芸文化学科)

今年の「七夕まつり」には文芸文化学科を中心に約80名の学生が参加。地域のボランティアの方々に着付けを手伝っていただき、浴衣姿で授業を受けたほか、さまざまなイベントを通じて日本の夏の風物詩を満喫しました。縁日をテーマにしたコーナーでは、新座市が東京2020オリンピック・パラリンピックの射撃競技会場になっていることにちなんで、「ねぎライフル」の体験コーナーを実施。さらには留学生による自国の七夕の紹介、プラネタリウム、舞踊家大友千里さんによる踊りのワークショップ、シーラ・クリフ教授の指導による浴衣ファッションショーと、華やかでにぎやかな一日を過ごしました。

[文章：ライターデザイン部 植村 萌絵、富樫 奈々、中西 麻樹]

6/5
特別授業



埼玉西武ライオンズOB指導のもと「ベースボール型」授業を実施

(児童教育学科)

「身体運動I」(児童教育学科 山本悟教授)の授業に、埼玉西武ライオンズアカデミーの2名のコーチ(同球団OB)をお招きして、「ベースボール型」実技指導が行われました。

同学科1年の学生94名が授業に参加し、コーチからボールの捕り方や投げ方、バッティングについて指導を受けました。野球経験のない学生がほとんどでしたが、将来の教職現場で必要となる学習指導を学ぶ貴重な機会となりました。

今回の特別授業は、本学と埼玉西武ライオンズとの「連携協力に関する基本協定」に基づく協働事業の一環として実施されました。



2/7
優秀賞を受賞



県産米レシピコンテストで学生2名が優秀賞を受賞

(食物栄養学科4年 安藤 聡美さん、栗田 茜さん)

「県産米を活用したオリジナルレシピ2018」(主催・埼玉県米消費拡大推進連絡協議会)で、食物栄養学科 小倉秀子ゼミの学生2人が考案した「さつまいもスノーボール」が優秀賞に輝きました。米粉とサツマイモを使った一口サイズのお菓子で、サクサクした食感やグルテンフリーへのこだわりなどが高評価を得ました。



3/26
トイレ外壁デザイン



文芸文化学科学生有志が駅前トイレの外壁をデザイン

(文芸文化学科4年 北田 静香さん)

「企業に学ぶキャリアデザイン」(文芸文化学科 松永修一教授)を受講する学生5人が、新座駅前公衆トイレのリニューアル事業のコンセプト作りと外壁デザインを担当。武蔵野美術大学学生の協力を得て見事なトイレアートが完成しました。開所式には本学から志村二三夫学長や岡本英之事務局長も出席しました。

9/11
ほっとカフェ@十文字



「ほっとカフェ@十文字」で地域の方と心の交流を

(人間福祉学科)

介護実習室で「ほっとカフェ@十文字」を開催しました。このカフェは、地域の方たちとの交流の場、また介護などの相談の場として、地域の専門職や民生委員、町内会の方々と本学人間福祉学科の教職員、学生で運営しています。今回は、脱水予防についての講話、認知症機能検査のクイズ、「あたまとからだを活用する体操」を行いました。

2月
地場野菜シリーズ
NO.2



新座の地場野菜を有効活用した「ごぼう畑ドレッシング」を開発・販売

(食物栄養学科 小林ゼミ)

COC事業の一環として「新座の地場野菜の有効活用」の研究を進めてきた小林三智子ゼミが「ごぼう畑ドレッシング」を商品開発しました。味噌と一味(いちみ)を効かせた和風ノンオイルタイプで、一昨年に商品化された「にんじん畑ドレッシング」に続く2作目。大学内売店などで販売中です(税込600円)。



国際貢献

東アジアを拠点にした国際栄養学研究

近年流行している糖質制限ダイエット。もともとは肥満や過体重の人向けに研究・考案された食事療法ですが、ベトナムでも多くの若い女性が、正常体重であるにもかかわらずこの低糖質・高タンパク質食のダイエットに励んでいます。高タンパク質食は心臓疾患や骨代謝異常などのリスクを高めるという報告もあり、正常体重の若者に適した食事かどうかは大いに疑問です。

そこで、ハノイ医科大学を拠点に「高タンパク質食は体重を減少させ、高糖質食は体重を増加させる」というダイエット理論が本当に正しいかを検証する介入研究（臨床試験）を行いました。被験者は同大学で栄養学を専攻する正常体重の健康な女子学生20名。彼女たちを2グループに分け、片方には高タンパク質食、もう片方には高糖質食を4週間摂取してもらい、エネルギー摂取量や体重変化などを調べました。

その結果、エネルギー摂取量は両者ともほぼ変わらず、試験前後の平均体重も変化はありませんでした。つまり、糖質制限ダイエットは正常体重で健康な若い女性には効果がないことが数値的に示されたのです。



山本教授の専門は国際栄養学。近年は主に東南アジアを対象に、生活習慣病の予防に向けた食文化改善の研究に取り組んでいます。



山本教授の大学の研究室にはベトナム、インドネシア、タイ、台湾など東南アジア出身の多くの留学生が在籍（左はベトナム出身のジャンさん、右はインドネシア出身のリリさん）。

こうしたダイエット研究のほかに、同分室では東南アジアの「食」と「栄養」に関するさまざまな研究が進められています。慢性的な食物繊維不足や野菜不足、子どもの肥満といった地域特有の問題点を改善し、東南アジアの人々の健康増進を図ることが私たちの最終的な目標です。

（食物栄養学科 山本茂教授）

昨年2月、本学協定校のハノイ医科大学（ベトナム）に開設された「工文学部アジアの栄養・食文化研究部門」の研究室分室。そこで30年以上の交流とともに進められている研究の一端を、同室長の食物栄養学科・山本茂教授にお聞きしました。

地域貢献

「ふるさと支援隊」

埼玉県では、大学生による支援活動事業「ふるさと支援隊」を2010年度より実施しています。2019年度は、本学より2つのプロジェクトが県の審査により採択されました。その一つ、神川町での活動を8年間継続している児童教育学科の星野敦子教授に、その取り組みについてお聞きしました。

2012年度より神川町南部（旧神泉村）において、「ふるさと発見」に関わる活動を始めて、今年で8年目になります。さらに昨年度からは対象地域を本庄市にも拡大して「農業と地域資源を生かしたグリーンツーリズムの試み」を活動テーマに、本学地域連携ボランティアサークル「ゾウキンくらぶ」や、星野ゼミの学生たち総勢27人が活動に取り組んでいます。

この地域は秩父山系からなる山間部で、人口は千人強、高齢者世帯が70%を超える地区もあり「過疎地域」の指定を受けています。2017年に実施した「一般公募によるグリーンツーリズム試行ツアー」に基づいて、昨年度は関西の学生も加わって地域の魅力を生かしたツアーを企画・実施しました。今年の11月には、学生たちのプランを取り入れ、女性を対象としたミニツアーを開催し、農業体験やそば打ち、醤油絞り、蕎麦づくりなどを行う予定です。

また地域支援活動の一環として、納涼祭の支援や子どもたちを対象とし



※ふるさと支援隊
埼玉県農林部農業ビジネス支援課による事業。少子高齢化や過疎化が進行し農林業や地域活動の維持が困難な状況になっている県内の中山間地域を、大学生が持つ若い感性や、大学の持つ専門知識で元気にしようという支援活動です。

た自然体験活動、地域の食材を生かした料理交流会なども継続的に実施しています。活動を始めたころに、キャンパスに参加していた小学生の子どもたちも高校生となり、今年の納涼祭で学生に「神川音頭」を教えてくれました。子どもたちの成長を見るのも地域活動の楽しみの一つです。過疎地の小規模校における教育に興味を持ち、卒論のテーマにしたいと言っている学生もあり、今後の展開が楽しみです。

8年間の活動を通して、今では旧神泉村を「第2のふるさと」のように感じています。今後は学生のアイデアを生かして、「地域の野菜や有機食品を活用したイベントの開催」や「動画を活用したプロモーションの実施」などにも取り組んでいきたいです。

（児童教育学科 星野敦子教授）

地域連携

子ども大学しき1日目

安達一寿副学長の指導のもと、学生スタッフに教わりながらプログラミングを学びました。



子ども大学しき2日目

建て替え前の志木市役所を探検。タウン誌編集長の岩下隆氏に教わり、新聞を作りました。議場ではカパルに遭遇!



子ども大学にいざ1日目

新座市のブラジル国際交流員 グスタヴォ・ラモスさんがブラジルを紹介。ブラインドサッカーにもチャレンジしました。



子ども大学にいざ3日目

マンガ工房いがけん代表 伊賀太郎さんを講師に迎え、お面の絵付けを体験しました。



子ども大学を開校

子ども大学は、子どもの学び力や生きる力を育み、地域で地域の子どもの育てることを目的に、現在埼玉県内54校が開校しています。本学では、「子ども大学しき」(8/3〜6)、「子ども大学にいざ」(8/20〜22)のプログラムに参画しています。

公開講座

特別招聘教授 土井善晴氏を講師に和食をテーマにした公開講座を開催

6月22日(土)、本学特別招聘教授の土井善晴氏を講師に、公開講座「和食を楽しむこと『その意味と目的』」を開催しました。本講座は2020年4月開設予定の健康栄養学科食文化コースの開設計念講座として行われ、食物栄養学科の名倉秀子教授がコーディネーターを、文芸文化学科の好本恵教授が司会を務めました。



第1部では、家庭ならではの和食の楽しみ方、家庭を大事にするという視点から、土井氏が自らの和食観について講演。家庭料理の目的は家族の健康を守り、家族を幸せにすることという持論に加え、料理を作るのは昔から概ね女性であり、女性が日本の食文化を作ってきたという話さらに子どもたちへの食育や安心して食べられる居場所を作ることの重要性などについて話がありました。

第2部の鼎談では、土井氏が出演したテレビ番組やフランス料理文化と和食文化の違いなどについて会話が弾み、その後、本学の授業で学生のリクエストに応じて味噌汁を作ったことに話題が及ぶと、土井氏自らステージ上で味噌汁を作るという展開に。出来上がった味噌汁は会場のお客様にも味見していただき、「おいしい」と好評でした。質疑応答も含めて約2時間、時に笑いも起き、楽しみながら和食文化について理解を深める公開講座となりました。

夢をカタチに！ 教員採用試験に向けて



児童教育学科では、埼玉県内・東京都内の6市の小学校で実施されるインターンシップや教育ボランティア、模擬授業、試験対策講座など、多彩なカリキュラムで教員を目指す学生を力強く支援しています。今回は同学科の学生3人に、教員採用試験に向けての取り組みなどを聞きました。

(ライター)デザイン部 小野寺七海、唐津奈々子、蛭川美佳子



大室 咲希さん
児童教育学科4年
埼玉県立坂戸西高校卒業
●インターンシップ先
志木市立宗岡第二小学校



石井 みなみさん
児童教育学科4年
私立狭山ヶ丘高校卒業
●インターンシップ先
清瀬市立芝山小学校



大井 眞帆さん
児童教育学科4年
東京都立北園高校卒業
●インターンシップ先
和光市立白子小学校

Q.教員を志した理由を教えてください。

子どもが大好きで、「子どもたちの成長する姿を見届けたい」という思いから教員を志望。母の友人である十文字出身の教員の方の話を聞き、「ここならきっと夢をかなえられる」と進学先を決めました。

中学時代、よくクラスの友人に頼まれて勉強を教えていたのですが、相手が「わかった!」と目を輝かせる瞬間が楽しくて……。それを機に、教員になってわかる喜びを伝えたいと強く思うようになりました。

小学校で多くの印象的な先生方と出会い、自分も子どもたちと関わる仕事に就きたいと考えるように。児童教育学科を選んだのは、小学校以外にも幅広い教員免許が取れる点に魅力を感じたからです。

Q.特に力を入れてきた授業や取り組みは何ですか。

本学が東京都と提携している「東京教師養成塾」の塾生に選抜され、週1回、特別支援学校で子どもたちを教えています。朝から下校時まで長く児童と関われるだけでなく、学校現場の動きや、先生と保護者との連携など、多くのことを間近で学べます。都内の小学校の教員を目指す人にはお薦めです。

学内選考で「埼玉教員養成セミナー」の受講生に選ばれ、今年1月から9月まで、学外での講義や体験実習などに取り組みました。大学の授業と並行して学ぶのは大変でしたが、実習先では子どもたちを前に授業をさせていただく機会もあり、学習指導や学級運営に必要な多くの知見を得ることができました。

2～3年次に履修した「模擬授業」です。数人単位のグループで授業の進め方や指導方法などを一から検討し、実際に教壇に立って授業のシミュレーションを行いました。「先生」を疑似体験することで実践的な感覚を磨くことができ、その後の4年次の教育実習にも臆せず臨むことができました。

Q.小学校インターンシップではどのようなことを学びましたか。

1年次から始まるインターンシップは、大学の時間割の合間を使って自由にシフトを組めるのがメリット。積極的に出席して授業観察や補助などに携わったおかげで現場にもすぐ慣れ、子どもたちとも仲良しに。一人ひとりの個性を育む教員の仕事の素晴らしさを身をもって実感できました。

特別な配慮を要する子どもの学習児童補助を体験させていただきました。マンツーマンで向き合う中で、子どもが成長する姿を肌で感じ、胸が熱くなりました。先生方のご指導から、子どもに愛情を持って接する大切さを学びました。

インターンシップ先では、色々な学年のクラスに入り授業のお手伝いをさせていただきました。集中力が途切れがちな低学年児にはアクションを大きくして気を引くなど、学年に応じた指導の仕方を肌で学習。この経験を生かし、将来は子どもたちに慕われるような先生になりたいです。

若桐会 Letter

「伝統ある老舗に憧れて」 「歴女」が異例の抜擢で本部長に

東京・亀戸に本店を構える船橋屋は「元祖くず餅」が名物の和菓子メーカーの老舗。佐藤恭子さんは30代で同社のナンバー2に大抜擢され、全部門の運営・管理のほか新商品の開発にも取り組むなど、マルチな手腕で会社の成長を支えています。

もともと日本の歴史・文化に関心があり、大学時代はゼミで江戸期の日本人形について研究していたという「歴女」の佐藤さん。就職活動でも歴史や伝統のある老舗企業に志望先を絞り込み、文化2（1805）年創業の船橋屋に就職しました。

「大学ではバスケットにも所属していたのですが、就職活動の直前に試合でじん帯を切ってしまい、松葉杖をつけて企業を回ることに。その時、他社にない優しい心遣いで応対して下さった船橋屋の社風に感激し、就職するならここと決めました。西郷隆盛や芥川龍之介、吉川英治など歴史上の人物や文化人とゆかりが深いこともポイントでした」。

入社後は、百貨店販売を皮切り



に、広尾の和カフェ店舗や通販事業、SNS戦略の立ち上げなど、短いスパンでさまざまな業務を経験。また、組織活性化プロジェクトのリーダーとして若手の育成や職場環境の改善などにも尽力し、社内での存在感を高めていきました。

そして2015年、8代目当主である現社長（渡辺雅司氏）の発案で行われた次世代リーダーを選ぶ社内選挙で、佐藤さんは全社員と勤続5年以上のパート従業員から過半数の支持を獲得。33歳の若さで同社のナンバー2である執行役員に就いたのです。

「弊社の社員やパート従業員は6割が女性なので、女性の視点に立って行動できるリーダーが待望されていたのだと思います」。

以来、佐藤さんは組織の運営や人事管理をはじめ、商品開発、新規事業の取り組みなどに幅広く手腕を発揮し、同社を力強く牽引し続けています。高い専門性が求められる業務も少なくありませんが、「優秀な社員や外部の方々にはしっかりカバーしていただいています。リーダーに必要なのは専門性よりも、多くの協力者を巻き込みコーディネートしていく力。大学の授業で学んだコミュニケーション関連の知識や技術が、そうした協力関係・信頼関係の構築に大いに役立っています」。

多忙な日々を送る佐藤さんですが、その合間を縫って進めている楽しみもあります。それは「船橋屋の歴史の調査・検証」。休日には国立国会図書館に出掛け、一日中調べものに没頭することもあるとか。

「これは仕事ではなく、あくまでも歴史オタクの個人的趣味。文獻から新しい事実を発見したときは、もう飛び上がるほど嬉しくなります」と笑う佐藤さん。夢は、収集した膨大な資料を元に、船橋屋を舞台にした物語が映画化・朝ドラ化されることです。



さとう きょうこ
佐藤 恭子さん

Profile
2004年十文字学園女子大学社会情報学部コミュニケーション学科卒業。大学時代はバスケットボール部で活躍。また学業成績にも優れ、特待生として表彰された。(株)船橋屋入社後は販売・仕入れ・営業・企画などさまざまな部署で活躍。2015年には社内選挙で同社のナンバー2に抜擢される。現在の肩書は執行役員企画本部本部長。また子会社の役員として、くず餅の製造過程で作られる乳酸菌を使った新商品の開発などにも力を注いでいる。



自他ともに認める「歴女」の佐藤さんは船橋屋の歴史的資料の発掘にも意欲的。デスクの下には古書店などから自費で購入した関連資料が山積みになっている。